

第29回学術集会 報告

セッション1「がん登録研修会の現状とあるべき姿」



金村 政輝 JACR専門委員

宮城県立がんセンター研究所

本セッションは、全国がん登録、院内がん登録の双方の研修会の現状をご報告いただき、あるべき姿を見出そうと教育研修委員会(委員長:大木いずみ先生(栃木県立がんセンター))が企画したセッションでした。COVID-19の流行のため、オンライン開催となりましたが、座長の寺本典弘先生(四国がんセンター)からのご提案を受け、大会長でもある大木先生のご決断により、本学会で初となるライブ開催が実現しました。

はじめに、座長の寺本先生より、本セッションの趣旨についてご説明いただきました。2013年に日本で最初?の大規模院内がん登録研修会を開催した際、初めて「がん登録研修難民」に遭遇した経験から、今日の全国がん登録、院内がん登録の研修会が抱えている問題について、西欧の宗教論争の例もあげながら問題提起が行われ、その後、各演者の発表にうつりました。

最初に、全国がん登録の研修会等における課題と実態について、金村から教育研修委員会が行ったアンケート調査の集計結果を報告しました。研修会の開催は、開催なし、1回のみ開催、複数回開催の3極化しており、課題としては、参加者の減少・固定化がみられ、対象者が新人と中堅・ベテランに二極化していることが挙げられました。今後、本来の目的に合った適切な方法の追求・試行が必要であり、お互いの情報共有と関係者の協力が必要であると報告しました。

次に、院内がん登録実務者への研修会の実施状況と課題について、奥山絢子先生(国立がん研究センター、以下「国がん」)からご発表いただきました。国がんでの研修のうち、データ分析研修では、経験度で対象者を分け、参加型の研修として実施しているなど試行錯誤されているとのことでした。

また、研修会実態調査の集計結果では、標準登録様式や病期分類について実施しているのが42県であるのに対して、データ分析は16県にとどまっていること、各県では、人材不足、研修内容の立案・講師選定に困難を抱えていることなどが示され、最後に、都道府県担当者の情報交換の場を設けることが提案されました。

最後に、「愛媛県の院内がん登録実務者認定・更新試験対策研修会の報告」と題して、田村純子先生(松山赤十字病院)からご発表いただきました。幹事病院と受講者で参加の姿勢に温度差があることから、受講者へのヒアリングを行い、現状と課題を分析し、研修会の目標を認定・更新試験へと改め、受け身の姿勢の研修会を参加者の主体的な学びの場へと転換したことをご発表いただきました。事前課題を課し、そこにe-learning(Moodle)を活用したこと、Web試験体験を取り入れたことなど、詳しくご紹介いただきました。

その後、総合討論となりましたが、冒頭、寺本先生から、①院内がん登録の研修、②全国がん登録の研修、③研修会のPDCAサイクル、④Web/IT活用、⑤JACRに求められる役割という5つの課題が提示され、活発な意見交換が行われました。今後の取り組みについて、いろいろなアイデアや学びをいただきましたが、全国的な情報交換・情報共有が、今後、具体的に実現し、各地での取り組みに反映されることを期待したいと思います。

最後になりますが、教育研修委員会のアンケート調査にご協力いただいた都道府県がん登録室の皆様、また、ライブでセッションにご参加していただきました皆様に感謝申し上げます。

**会員(個人・団体)を
随時募集しています**

<http://www.jacr.info/>

会費

個人(賛助) …… 年間 3,000円
団体(賛助)1口 … 年間 50,000円
(1口以上)

寄付金も受け付けています

入会のお申込みや寄付等のお問い合わせはウェブサイトの「お問合せ」よりお知らせください